



ひだまり

第45号

2010年12月

目次

今日日本

尽情享受铁道的乐趣


© Hiramatsu Yushi

人物采访

電車で親子の絆が強まった



発行 財団法人国際文化フォーラム

編集人 中野佳代子

編集・制作 飯野典子
千葉美由紀
長江春子
森本雄心

翻訳・校正協力 シンプルデザイン

制作協力 有限会社新疆

財団法人国際文化フォーラム (TJF)

T 112-0013
東京都文京区音羽1-17-14
音羽YKビル3階
電話: 81-3-5981-5226
ファックス: 81-3-5981-5227
<http://www.tjf.or.jp/>
E-mail: hidamari@tjf.or.jp

だいにがいこくご にがいにほんごさいしんじょうほう! 第二外国語(二外)日本語最新情報!

二外の日本語教師研修を開催しました

国際文化フォーラム(TJF)は『ひだまり』43号でお知らせした「二外日本語教師研修(好朋友ワークショップ)」を、遼寧省基礎教育教研培训中心との共催で、8月22、23日の二日間瀋陽市にて開催しました。ワークショップは、東北三省で二外の日本語教育を担当する中高校の日本語教師を対象とし、遼寧省から33名、吉林省から4名、黒龍江省から3名、計40名の研修生が参加しました。

研修生は二外教材『好朋友』の理念、特徴、使い方の説明を受けたあと、実際に教案を作りました。さらに、今年9月より二外日本語を開講する学校の日本語教師に向けて、すでに二外を実施している大連市の日本語教師に模擬授業をしてもらい、一外日本語との違いを提示してもらいました。文法中心からコミュニケーション中心、そして文化を取り入れる授業への転換について、研修生からは活発な意見が出されました。二外の『好朋友』の考え方や教え方は一外の日本語でも取り入れができる

二外のイメージを発表し合い、二外を教えるにあたっての心構えを研修生全員で共有。

との意見もあがりました。

本研修の詳細は、『国際文化フォーラム通信』88号(www.tjf.or.jp/newsletter/pdf_jp/F88.pdf)をご覧ください。

二外日本語を始める学校が増えています

大連市の26校、約5,500人の生徒(2009年の調査)に加えて、2010年9月から遼寧省(大連以外)6校、吉林省2校、黒龍江省2校の学校で、約2,000人の生徒が二外日本語の勉強を始めました。2011年3月には、東北三省内で二外日本語を開講している学校の校長と日本語教師が、各校の二外実施状況を報告する「経験交流会」を长春市で開催する予定です。

朗報!『好朋友』を贈呈します!

『好朋友』を出版している外語教育与研究出版社が、『好朋友』を使って二外日本語の開講を検討したい中高校へ『好朋友』(全5巻)2セットを贈呈します。該当校の日本語教師は担当の薛豹氏(010-88819888、Eメール:xuebao@flrp.com)に連絡してください。

なお、TJFは遼寧省基礎教育教研培训中心と共同運営で、『好朋友』を使う教師のためのウェブサイトを近日中にオープンする予定です。『好朋友』を授業で使う際の各種資料を公開します。関心のある方は、morimoto@tjf.or.jpまでご連絡ください(中国語可)。また、皆様が勤務する学校で、すでに二外日本語を開講していましたら、ぜひTJFまでお知らせください。

尽情享受铁道的乐趣

铁道热

1970年代，也就是1872年日本铁道开通大约100年后，日本迎来了第一次铁道热。当时，电力机车已经占据主流，日本国内的蒸汽机车被一辆接一辆地报废，很多迷恋蒸汽机车的人们，纷纷拿着相机聚集在各地的车站和轨道沿线。但是当蒸汽机车完全消失之后，铁道热也随之平静了。

进入2000年代，随着因特网和数码相机的普及引发了第二次铁道热。人们能够更随意地拍摄铁道照片，能够从网络上瞬间获得各种信息，这些让更多的人增加了感受铁道魅力的机会。据说现在的铁道迷大约有150至200万人，其中狂热的铁道迷约有2万人。

这次铁道热的特征表现为女性铁道迷的增多。过去，铁道迷给人们的印象是宅男居多。但是，自从女性铁道迷为题材的漫画《铁姐的旅行》(2002年开始连载)和电视剧《特急田中3号》(2007年)的出版和播出后，人们对女性铁道迷的印象也改变了。女性铁道迷被称作“铁姐”。特别是以喜欢铁道的“铁孩子”及与孩子一起享受铁道乐趣的“铁妈妈”们为对象的商品、活动或书籍也多起来了。



《铁姐的旅行》

讲述一位对铁道完全没有兴趣的女编辑，在跟一位铁道迷游记的男作者一起坐电车周游全日本的过程中，自己也变成一个超级铁道迷的故事。

现在，日本的铁道网非常发达，可以说已经铺到了日本全国的各个角落。在每天的生活中，无论是上学还是上下班、买东西，铁道已经成为人们身边不可缺少的交通工具。同时，出门旅游、转职或搬家时也经常利用铁道，所以把铁道看作是人生的重要转机或是珍贵记忆的载体，对其抱有特别感情及眷恋的铁道迷也不乏人在。

最近，铁道迷更是有增无减，性别和年龄层也扩大了。本期，我们将介绍在最近的铁道热中，各种享受铁道乐趣的方式。



方式之一 “观赏”

对于铁道迷来说，享受铁道乐趣最基本的方式就是观赏。在同时能看到多条铁道线的地方以及观察列车的最佳角度，都有很多人前去观赏。

投宿“观铁客房”观赏铁道

很多宾馆抓住铁道热潮商机，把从窗子往下能看到铁道、列车、车站或者车库的客房冠以“观铁客房”之名来吸引顾客。有的“观铁客房”里面装饰有铁道模型，有的向在“观铁客房”投宿的客人赠送与铁道相关的纪念品，为了博得铁道迷们喜爱动了很多脑筋。据说，有很多铁道迷为了能在“观铁客房”里住一晚，特地从远道而来。因此，与普通客房相比预订这类客房的人更多一些。“观铁客房”的魅力在于能够从高处远眺平常只能在地面观赏的铁道，好像是在观赏精巧的铁道模型和街道模型一样。

“铁妈妈”与“铁孩子”的铁道观光

最近出版了一本从“铁妈妈”——母亲的角度精选，并加以介绍的铁道导游书《“铁孩子”与“铁妈妈”的电车观光指南》(棚泽明子著)。书中收集、介绍了能让妈妈和孩子一起安心游览的铁



很受“铁妈妈”及“铁孩子”欢迎的公园。从这里能看到新干线。



《“铁孩子”与“铁妈妈”的电车观光指南》

道景点。还介绍了一些可以一边看铁道一边用餐的餐厅，以及不光是孩子，妈妈也能舒心消闲的场所等。这本书的出现，使母亲和孩子们的铁道观光更方便了，也进一步增多了人们成为“铁妈妈”及“铁孩子”的机会。



版面中标有这个图标处表示在“点击日本”的网页上登有相关信息。(更详细的说明、更多图片以及登场人物本人的声音等)
<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/>



享受铁道乐趣的各种方式



方式之二 “乘坐”

列车本来是向目的地移动的运输手段。而最近，坐车本身成了消闲、娱乐的目的之一。

令铁道迷神往的铁道旅行

这几年，一次能乘坐多条新干线的旅行、乘坐即将退役列车的旅行、参观车库的旅行等很有人气。这类旅行的魅力是能在短时间内乘坐多次列车，能去个人去不了的地方。同时，参加旅行的人能获得纪念车票及钥匙链等纪念品，专门收集这些纪念品的铁道迷也不乏人在。

据多次策划这类活动的旅行社介绍，以前参加旅行的基本上是男性，最近“铁妈妈”和“铁孩子”也逐渐增多。



退役列车纪念旅行简介。

夏季的留念——铁道盖章接力赛

近几年，参加铁道盖章接力赛逐渐成为“铁妈妈”和“铁孩子”的夏季例行活动。所谓铁道盖章接力赛，即铁道公司主办的乘列车环游沿线各站，并在各车站设置的盖章点的敲图章活动。参加人员还可以按收集图章的多寡领取相应的纪念品。在孩子们的暑假期间，日本全国各家铁道公司会举办各种各样的盖章接力赛。

例如JR东日本公司每年夏天举办的“口袋妖怪盖章接力赛”就非常有人气，每年大约有20多万人参加。在以东京都内为中心的95个车站设置了卡通人物“口袋妖怪”（也称“宠物小精灵”）图章的盖章点，为了收集这些图章，孩子们需要坐车去这95个车站。



© TJF



方式之三 “拍摄”

数码相机的普及使得铁道摄影成为简单而方便的消闲乐趣。

行为、举止的品位

在铁道迷队伍日渐壮大的同时，一些铁道迷的恶劣举止令人担忧。例如，旁若无人地随便拍照和大声喧哗，擅自闯入禁止区域拍照，干扰司机驾驶列车等行为。这些做法不仅损害了铁道迷整体的名声，还有可能引发重大事故，已酿成严重的社会问题。



铁道摄影的乐趣

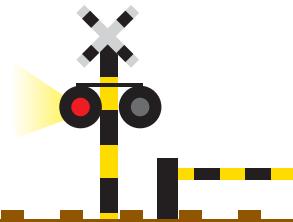
除了拍摄住地附近的列车，很多铁道迷们还手拿相机，奔波于全日本各地去拍摄一天往返一次的特别列车、货运列车或者是外观奇特的列车。还把拍摄的作品在网上公开，或与其他铁道迷交换信息。

对于铁道迷们来说，被决定退役的旧式列车的最后一次运行，绝对是一项重要活动。依依不舍的铁道迷们，对那款列车有着特殊记忆和感情的人们，会从日本各地蜂拥而至，站台和车站里都会挤满了人。当天，列车上结满最后一次运行的纪念彩带，还会举行纪念仪式、出售纪念品，或在车站内陈列照片、年表、铁道器材等。



2010年3月21日，7700型列车最后一次运行的情景（爱知县本宿站）。

© Hiramatsu Yushi



方式之四“学习”

全日本有好几处可以了解有关铁道知识的铁道博物馆，在那里，大人和孩子都可以玩得很开心。也有些人由此成了铁道迷。

寓教于乐，在体验型博物馆学习铁道知识

2007年在埼玉县建成的铁道博物馆，吸引了包括铁道迷在内的无数观众。其引人注目的原因之一是不同于以往以展示为重点的博物馆，这个铁道博物馆中设置了很多列车驾驶体验设施。例如，可供游客在室外铺设的轨道上亲自体验驾驶的微型列车，或是模拟实际行驶全程、让人感觉仿佛在驾驶一列真正列车的、世界上第一台精巧的蒸汽机车模拟装置。

另一个理由是展品十分丰富。不仅可以查阅铁道开通至今以来的58万件珍贵的历史资料，还可以观赏全长约1,400米、日本最大规模的立体模型铁道。

在这里，由于可以通过观赏、游览来学习铁道的原理、构造、技术及运营系统等知识，开馆2年半以来已经吸引了230万人到访。



铁道博物馆。停放在旋转台上的蒸汽机车，一天数次拉响汽笛。



方式之五“制作”

铁道模型价格不一、种类多样，是老少皆宜的消闲乐趣。

仿真铁道模型的世界

仿真铁道模型是把现实中的街道和铁道风景凝缩到一个微型世界，里面有精巧的模型



© Railway models, TOMY TEC Co., Ltd.

逼真的铁道模型世界。列车在行驶、移动。其魅力就在于可以制作出自己理想的风景，让自己喜欢的列车在其中运行。这种模型价格较高，购买者一般是成人。另一方面，也有廉价的铁道模型。比仿真铁道模型制作起来要简单，所以也比较便于收集。比较有代表性的是在塑料轨道上行驶的“塑料轨道车”，有新干线及地铁等很多种类。这种模型从50多年前就开始发售，由于最近的铁道热更是人气攀升，近年



铁道玩具。



© Kodansha LTD.

来还在日本各地举办了“塑料轨道车博览会”。



方式之六“收集”

车票和列车零件等是很有人气的传统收藏品，最近，市场上还出现了模仿各铁道公司列车的玩具及日用品，收集的人日渐增多。

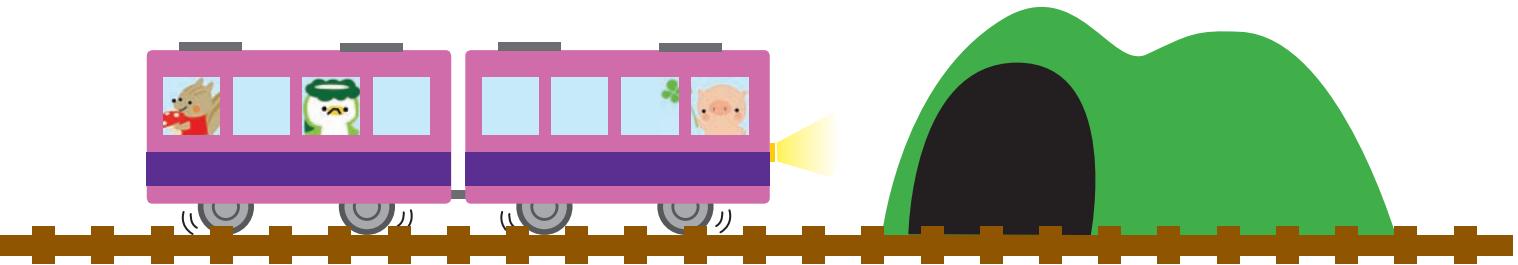
铁道纪念品

各铁道公司均发售各种各样的铁道纪念品，从模拟铁道和列车的文具、日用品、点心到独创的卡通人物的模型等应有尽有。这些纪念品不仅是在铁道相关的博物馆出售，在各车站的小卖店、铁道纪念品专卖店，或者网店上也都可以买到。



© SEIBU RAILWAY Co., Ltd.

(顺时针方向) 卡通人物模型、报警器、IC 乘车卡夹、纸巾盒、留言板。



越来越多的铁道独有乐趣

有名站长，其实是……？

和歌山电铁的贵志站有位闻名遐迩的站长。这位站长其实是一只名为“たま（TAMA）”的猫咪。这只猫原来是车站旁小卖店里饲养的，后来小卖店关闭时，铁道公司的总经理为了搭救这只猫，就在2007年任命它为站长，让它住在车站里了。从那以后，大批游客及许多媒体都争相来一睹“猫站长”的英姿。据说由此带来的经济效益达11亿日元之多。



超人气的猫站长。

一边用餐一边欣赏铁道

店内摆放着铁道模型、菜单上有带铁道名字的菜肴、店里布置得好像列车车厢……，这种以铁道迷们为用餐对象的“铁道咖啡馆”或“铁道餐厅”很有人气。置身于最喜欢的铁道世界里，享用美食，这对于铁道迷们来说具有莫大的吸引力。



这种别具一格的装饰使得铁道迷们从全日本，甚至海外慕名而来。

其中，位于东京的“咖喱车站尼亞加拉”在铁道迷中很有名气。客人点的咖喱由模型机车送到客座上。店内陈设为清一色的铁道相关用品：列车的坐席、车站上用过的旧挂钟、号码牌、终点站标牌等。

今后的环保交通工具

铁道对自然环境造成的负担较小，是可以从事长距离大批量运输的交通工具。与飞机、汽车等其他运输工具相比，铁道的能源利用效率更高，将一个人运送一公里所排出的二氧化碳是私家车的九分之一，飞机的六分之一。因此，铁道作为今后主要的交通工具备受世人瞩目。例如“汽车王国”的美国发表了重点建设高速铁道网计划；中国正在大兴土木，积极修建大城市圈的铁道网。另外，英国、巴西、俄罗斯等国也纷纷开始行动，作为世界新一代的运输手段，各国都在制定引进高速铁道的计划。



500型新干线车头的设计灵感来自翠鸟的嘴型。

新干线设计的秘密

不仅在日本，在海外也很有人气的高速铁道——新干线，除了外观的精美，还是通过精密设计、制造出的能够减少空气阻力、实现高速运行的交通工具。人们难以想像的是其外观设计的灵感，竟然来自野生动物。

例如，500型新干线的车头设计，其灵感来自捕鱼时不发出丝毫声音、一头扎进水里的翠鸟嘴型。由此，成功地减缓了新干线进入隧道时发出的冲击音。最尖端的科学技术灵感来源于自然界，真是意味深长。

【本期关键表达对照】

- 铁道迷：鉄道ファン
铁道热：鉄道ブーム
宅男：オタク
铁孩子：子鉄
铁妈妈：ママ鉄
游记作者：トラベルライター
盖章接力赛：スタンプラリー^{おと}
口袋妖怪、宠物小精灵：^す
ポケットモンスター
最后一次运行：ラストラン
微型：ミニチュア
收藏品：コレクション
收集的人、收藏家：コレクター
模拟装置：シミュレーター
模拟驾驶、模拟操作：シミュレーション

杂学博士

- 1～5の楽しみ方をする鉄道ファンのことをなんというでしょうか。a～eから選びましょう。
- 乗るのが好きな鉄道ファン
 - 写真を撮るのが好きな鉄道ファン
 - 電車が走る音や駅のアナウンスなどの音が好きな鉄道ファン
 - 模型を作ったり集めたりするのが好きな鉄道ファン
 - 電車に関連するものを集めるのが好きな鉄道ファン
- a. 音鉄 b. 収集鉄 c. 乗り鉄 d. 模型鉄 e. 摄り鉄
- かいどう
解答は「ひだまり」ウェブサイトに掲載しています。
<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>

電車で親子の絆が強まった

ゆうや（小学校3年生）、ひろこ（母）、千葉県在住



ゆうやくんの声は、「くりっくにっぽん」で聞けます。

ゆうやくんは電車に乗るのが大好きな「子鉄」です。ゆうやくんをあちこちに連れて行って、いろいろな電車に乗っているうちに、お母さんのひろこさんも気がついたら電車が大好きな「ママ鉄」になっていました。今号は、そんな二人を紹介します。

Q：ゆうやくんが電車を好きになったのはいつ頃ですか。何きっかけはありますか。

ひろこ：生後5ヵ月頃、夕方になると、ゆうやが大声で泣き出すようになりました。抱っこしても泣き止まないので困ってしまいました。それで、モノレールや電車を見せに家の近くの草っぱらに連れて行くと泣き止んだんです。次の日も、その次の日も夕泣きが始まったゆうやをその草っぱらに連れて行くと、ぴたりと泣き止む。2ヵ月ぐらい、毎日行きました。これが、電車にはまる大きなきっかけでしたね。その後、夕泣きがおさまってからも、ゆうやが電車を見て喜ぶので、この草っぱらにはよく行きました。

Q：電車のおもちゃも好きでしたか。

ひろこ：ええ、どこに行くにも電車のおもちゃがいっしょでしたね。

ゆうや：今はプラレール^{*}が大好き。プラレールの電車を30個ぐらい持ってるよ。ママもプラレールをつくることがあるよ。ぼくの誕生日に学校から帰ってきたら、ママが誕生日プレゼントだよって、プラレールをつくってくれていたことがあって、すごくうれしかった。あー、話してたら、プラレールで遊びたくなってきたやつ。



大好きなプラレール

ひろこ：電車に乗った日は必ず電車で遊びますね。乗った電車をプラレールで走らせたり、駅をつくって車掌



さんや駅員さんの真似をして、「電車がまいります」「ドアが閉まります」とか、駅名を言ったりすることもあります。

Q：今でも電車を見るのは好き？

ゆうや：うん！

ひろこ：自宅から学校までの道中に陸橋があるんですが、そこからよく電車を見るみたいですね。

ゆうや：同じ路線でも色が違う電車が走っているのがおもしろい。学校に行くときにちょうど見られるんだ。それから、昔走っていた車両が1週間に1回ぐらい見られるんだ。見られたときは、「やったー！」ってうれしくなる。

Q：今まで何種類ぐらいの電車に乗ったの？

ゆうや：たくさん乗りすぎてわからない。

ひろこ：ゆうやが3歳になった頃から本格的に電車の旅に行くようになりました。小学生になるまでは月に1回、多いときは2、3回どこかに行っていました。日光、箱根、前橋、大宮……。本当にいろいろな電車に乗りましたね。

1年生のときは、ポケモンスタンプラリー^{**}で95駅を5日間で制覇しました。遠い駅だと、片道2時間以上かかるので、95駅をどういう順番で回るのか作戦が必要んですよ（笑）。スタンプラリー用に子供向けの時刻表が市販されているんですが、そのおかげで、ゆうやは1年生のときには時刻表が読めるようになりましたね。

ゆうや：いっぱい電車に乗れたし、ポケモンのスタンプもいっぱい押せたし、すごく楽しかった。また来年やりたい！

Q：どの電車の旅がいちばん思い出に残ってる？

ゆうや：越後湯沢（新潟県）に各駅停車の電車で行ったこと！トンネルの前までは何もなくて、トンネルを出たら真っ白だった。雪の世界だった。

ひろこ：ゆうやは4歳のときに、家族3人で行ったんです。自宅を5時に出て、お昼頃着きました。雪景色を

見たときに、ゆうやは「わーーーーっ！」って大声を上げて喜んだのをよく覚えています。千葉では経験できないですからね。

Q: ほかに思い出に残っている旅はある？

ゆうや：この間の春休みに行った大阪！ 特急列車の南海ラピートに乗りに行ったんだよ。南海ラピートは先頭車両の顔がとがって、車体は青色ですごくかっこよかった。

Q: 行き先や乗る電車はどうやって決めるの？

ゆうや：最初にぼくが本で先頭車両の写真を見て、好きな顔をさがすんだ。電車によって顔が全部違うんだよ。それで好きな顔があったら、この電車はどこを走っているのかを地図で見て、ここに行きたいって言うんだ。南海ラピートもそうだったよ。こんな顔はあんまり見たことがなかったから、乗りたいって思った。写真よりずっとよかったです。

ひろこ：ゆうやから行きたいところを聞いたたら、私がそこに行くるルートを何パターンか考えます。大阪に行ったときも、ルートを三つ考えました。日本

は電車がたくさん走っているので、いろんなルートが考えられるんですよね。それで、それぞれのルートでどんな電車に乗れるのか、どんな観光地や遊び場所があるのかといったことを、ゆうやといっしょに調べて、どのルートにするのか決めます。

こうやってゆうやといっしょに調べたり話をしたりすることで絆が強まったと思います。調べること、目的地まで行くこと、目的地で楽しむこと、どれも楽しい。それから、どの電車に乗りたいのかを本で見ているうちに、ゆうやは漢字もかなり覚えましたし、日本地図もけっこう頭に入りましたし、集中力もつきました。

ゆうや：いろいろ考えて、計画を立てるのは楽しいから好き！



Q: 電車のどんなところが好き？

ゆうや：いろいろな場所を走ってくれるところ。それから、窓の外の景色を見るのがすごく好き！ いつもずっと外を見て。トンネルを出たときに、雪の世界だったり、きれいな海が見えたりするのがすごくいい。稻妻も見たことがあるよ。

ひろこ：車だったら自分たちで目的地に行くという感じだけど、電車は私たちを目的地に連れて行ってくれる。車のほうが移動は楽なんですけど、電車は乗っていること自体が楽しい。それから、いっしょに行っている人と時間と空間を共有できるところが好きですね。車でも時間と空間は共有できると思うんですけど、電車のほうがその感覚が強いんですよね。

ゆうや：ぼくも車だとすぐに寝ちゃう。電車だとずっと外を見ても飽きない。

ひろこ：田園風景がずっと続いているだけなのに、ゆうやは寝ないでずっと見ていますね。親のほうが寝ちゃいます（笑）。

ゆうや：それから、窓に耳をくっつけて音を聞くのも好きだよ。ガタンゴトンっていう音や、向こうから電車が来るとビューッって音がしたりするのを聞くのが楽しい。なんでだかわからないけど、電車によって音が違うんだよ。電車とすれば違うとき窓がゆれるのも好き。

ひろこ：ゆうやはそうやって体でいろいろなことを感じますね。

Q: これから乗りたい電車はある？

ゆうや：うん。かっこいい電車にもっと乗りたい！

ひろこ：ゆうやが大きくなってきたので、もっと遠くに行きたいですね。九州や北海道の電車に乗りたいねって話しています。

* TAKARA TOMY 发售的带轨道的玩具电车，可以按自己喜欢的形状把轨道连接起来。自1959年发售以来，一直是很有名气的长期畅销商品。每逢暑假等节假日，日本各地还会举办塑料轨道车博览会，会场上有很多男女老少，非常热闹。<http://www.takaratomy.co.jp/products/plarail/>

**参阅“今日日本”。以东京为中心，在埼玉、茨城、神奈川、千叶等县的车站设置了盖章点。

以下网页上登载有日本全国铁道路线图 www.ryoko.info/rosen/train/

好きなもの



好きな食べ物

梅干と肉料理（特にハンバーグ、から揚げ）。梅干は毎日食べる。

好きな色

青色と赤色。青色は海の色だから。赤は強い色、それと大好きな梅干の色だから！

好きな教科

体育、とくにソフトボール投げ。



电车密切了母子关系

祐也（小学三年级）、弘子（母亲），居住在千叶县

祐也非常喜欢坐电车，是一个热心的“铁孩子”。在带着祐也到各地坐各种电车的过程中，不知不觉中，祐也妈妈也变成了一个喜欢电车的“铁妈妈”了。本期将介绍这两位铁道迷。

Q：祐也喜欢电车是从什么时候开始的呢？最初的理由是什么呢？

弘子：祐也刚满5个月的时候，一到天要黑就会大声哭闹。哄也不是，抱也不是，哭得让人很为难。于是，我就带着祐也去家附近的草地上看轻轨或是电车，结果祐也到那里就不哭了。第二天、第三天，当祐也哭闹的时候就带他去草地，一到那里他就不哭了。大约有两个月，我每天带他去草地看电车。这可能就是他喜欢电车的最大理由吧。从那以后，即使祐也已经过了“闹天黑”的年龄段了，因为一看电车他就很高兴，所以我还是经常带着他去草地。

Q：祐也喜欢电车玩具吗？

弘子：是的，不管去哪里他都要带上电车玩具。

祐也：现在最喜欢的是塑料轨道车^{*}，这种电车玩具我大概有30多个。有时妈妈也组装呐。有一次我过生日，放学回家看到妈妈组装的塑料轨道车，妈妈说那是给我的生日礼物，我真是开心极了。



啊，一说起来我又想玩轨道车了！

弘子：要是哪一天坐了电车，回家以后一定要玩电车玩具。让坐过的电车的玩具在塑料轨道上行驶，有时还在塑料轨道上做一个车站并模仿乘务员或车站工作人员说：“电车马上进站”，“车门就要关闭”，或模仿着报站名什么的。

Q：现在也喜欢看电车吗？

祐也：嗯，喜欢！

弘子：从家到学校的途中高架桥，好像经常在那里看电车呢。

祐也：同一条线路上有不同颜色的电车经过，我觉得很有趣。去学校的途中正好可以看到。而且老式的电车一星期差不多只能看到一次，看到的时候我就会忍不住地叫出声来：“耶—！”

Q：迄今为止都坐过哪些电车呢？

祐也：坐得太多了，我都记不清了。

弘子：祐也3岁的时候，有了第一次真正的电车旅行。在他上小学之前，差不多每月一次，多的时候有两三次，领着他坐电车出去玩。日光、箱根、前桥、大宫……，真是坐过的电车太多了。

他上一年级的时候，参加过口袋妖怪盖章接力赛^{**}，全程共有95站，我们用了5天走完全程。远的车站单程就要两个多小时呢。所以，按怎样的顺序走完95个车站，需要有特别的作战计划呢（笑）。当时，有卖盖章接力赛用的儿童版时刻表，多亏参加了接力赛，祐也从上一年级起就学会看时刻表了。

祐也：坐了好多次电车，盖了好多口袋妖怪的印章，太高兴啦，明年还想参加！

Q：哪次电车旅行给你留下的印象最深？

祐也：坐慢车去越后汤泽（新泻县）的那次！过隧道前周围的风景什么都没有变，一出隧道全成白色的了，真是一片雪的世界！

弘子：那是祐也4岁的时候，全家3人一起去的。早晨5点从家出发，快到中午的时候到达。看到雪景的时候，祐也“啊—！”地大声欢叫起来，那高兴的样子至今记忆犹新。这种景观在千叶是无法看到的。

Q：还有其他印象比较深的旅行吗？

祐也：上次春假去过的大阪！是坐特快列车南海rapi:t（德语，快速的意思）去的。南海rapi:t的车头尖尖的，车身碧蓝，特别帅。电车不同，“车脸”也不同呢。

Q：每次是怎么决定要去哪里、坐什么电车的呢？

祐也：我首先是在书上看列车车头的图片，找到喜欢的样式，再从地图上找这趟电车行驶的路线，然后跟妈妈说想去的地方。坐南海rapi:t也是这样，像南海rapi:t那样的“车脸”还很少见过，所以就想去坐一次，实物电车要比图片帅多了。

弘子：听到祐也想去什么地方之后，由我来考虑要去那里的话有几种路线可以走。去大阪的时候也同样，我考虑了三条路线。因为日本的电车很多，所以可以有很多不同的路线。接下来，再跟祐也一起研究哪条路线可以坐什么电车，有哪些景点和玩的地方，最后决定走的路线。

这样经常跟祐也一起查找路线，讨论行程，我觉得增进了我们母子的感情。查找路线、去目的地、在目的地游玩，每一个环节都很开心。还有，在看书找想坐的电车时，祐也学到了很多汉字，日本地图也记住了很多，注意力也集中了。

祐也：东想西想，制定计划很开心，所以我很喜欢。

Q：喜欢电车的什么地方呢？

祐也：电车能带着我去各种各样的地方。还有特别喜欢从车窗往外看风景！坐电车的时候，我总是看着车窗外面。钻出隧道的时候，有时是雪的世界，有时是美丽的大海，特别棒。还看到过闪电。

弘子：开车的话是自己朝目的地移动，而坐电车则是电车把我们带到目的地。开车出去比较方便，而坐电车本身即是一种享受。还有，很喜欢能与同行人共处的时间和空间。虽然开车也能共享时间和空间，但是坐电车的话这种感觉会更强烈。

祐也：我一坐汽车就要睡觉，而坐电车，一直看着窗外也不会觉得腻。

弘子：很多时候，外面一直是延绵的田园风光，祐也也不感到困，一直盯着看。我们大人倒要睡着了（笑）。

祐也：还有，我喜欢把耳朵贴到车窗上听。喀当咕咚的声音，或是迎面开过来的电车“嗖”地一声飞跑过去，真是很过瘾。我也说不出为什么，不同的电车发出的响声也不同。错车那一瞬间，车窗的摇动也很喜欢。

弘子：祐也就是这样用身体来感觉各种事情呢。

Q：今后还想坐什么电车吗？

祐也：嗯，还想坐更酷的电车！

弘子：祐也已经长大了，想去再远一点的地方。我们在谈论要去九州和北海道的电车。

*、**的注释，见本期日文版“人物采访-2”。